

常磐イタス

祝七週年紀念號

五十嵐炭礦石炭

財界の雄 五十嵐炭礦の副業と揮せられ茲に悪戦苦闘を繼續す苦心努力して一名の失業者さい云つては少しく過言ではあるが事數年の今日成功の域に達し出さなかつた事は天下周知の事一般より斯様に見られてゐるた云ふ事は過言ではないか同實である。

けに事業の確實性を認められる礦は日を経るに従ひ其信望と手五十嵐炭礦の炭質は其の尤も優その五十嵐炭礦々業所では最近腕とは益々加はり擴張は内容の秀なる物として各地より注文殺の好況時に入つて一層の拍車を充實と改善とに奮闘の結果今日倒せられてゐるなど、所謂善因掛け、採炭及び需要の方面には隆昌を見るに至つたのである。善果報酬とでも云ふべきで有らかつて見ざりし躍進振りを示し斯くして兩氏は一面頗る温情にう。同時に各地より歓迎せられてゐる。大正七八年度の崩落期富み紳士として一點非難さるべからぬ夫れ信用と兩氏の人格とを契機に春風秋雨久しく財界泰き處がない。茲二三年前より大手腕とは遂に天に通するので茲縮に向ひ年次深刻を加へ、常磐なる不況にもかゝらわらず其當時に成功の神は開拓されたので有炭礦界は眞先に出炭量を減じ各より凡ゆるか如き大なる犠牲とる。

常磐炭礦界の奮闘家

水野一壽氏

だらけに絡む勞資爭議さへ各所に起つたのも其の昔。太平洋の彼方より捲起たインフレーションは各炭礦共著しき活況を呈したが、其の中五十嵐炭礦の如きは炭質の優秀なるでんと炭層の無盡藏と相俟て目醒しい躍進を示してゐると云ひば頗る無氣味な暗い空気が訪れた者は必ずや氏の信望と手。尙現在の従業員を募集中心に取り圍まれて居る處である腕とに敬服される者が有る。きくが時節柄争奪戦が展開され早合点する者も或は有らうが決然と水野氏は炭礦界に於ける經て隨年その就職ナンセンスをして其んな處ではない。寧ろ一職家として住年壽炭礦の經營に入見るとは耳寄な話して有る。從團樂として温かい家庭の様な感るや満身努力して大に發揮せらに對する最もよき政策を施す事に充されて居る事は事實で有れ日を経るに従へ其信望、手腕は五十嵐氏並に高橋礦長の手腕の如き温情の輝を見せ、一般と改善とに奮闘の結果今日の隆徒町三ノ七七(電話下谷六一一)經營に入るや満身努力大いに發から非常に敬愛されて居る同水昌を見るに至つた事は水野氏の番)で營業する事になつた。

發行日毎月十日 二十日
定額 毎月十部金十部
半年購読料一圓
廣告料金 一行三十錢
場所指定 一行五十錢
發行所 高橋竹四郎
編輯人 高橋竹四郎
發行所 福島縣平町田町六十二番地
常磐イタス社
電話二八二番

努力は常磐炭礦界に於ても賞賛されてゐる。總て成功は努力の賜である、後日の大を成しものである事を確信する。

出張所を轉移し 堀江工業東京で活躍

自動車部著しく伸び展

平町堀江工業株式會社の東京、大阪、青森各出張所中下谷區御徒町三丁目の東京出張所では社長江口忠一氏の事業として先年來自動車部を併置營業中であつたが近來業務漸次多忙を加へ營業所を共にするの不便を生じ來た爲此程會社の出張所を、堀江區大手町二ノ二日清生命館三二八號電話丸の内(23)一八九三番

縣會議員 石川德壽	縣會議員 萩原義雄	古河鑛業株式會社	好間鑛業所	小田炭礦株式會社	萩原鑛業所	杉山炭礦鑛業所	五十嵐炭礦	不動澤鑛業所	小野田炭礦會社	戸部光衛	隅田川炭礦	小田吉治	浪花炭礦會社	内郷村	壽炭鑛會社	水野一壽	福島炭礦會社	菊地德太郎	神奈川炭礦會社	矢郷
四倉町 町長 新妻盛	助役 菅波平之助	江名町 町會議員 近藤吉松	江名町 町會議員 高崎喜三郎	豐間村 村 豐間大敷網事務所	好間村長 金成淺治	好間村會議員一同	清關内油店	町會議員 關内正一	平町二丁目(電話一六番)	平庶民金庫 常任理事 諸橋敬一郎	前平青年團長 町會議員 多田井笑次郎	四倉消防組頭 町會議員 金成岩吉	町會議員 面川龜之助							